

■ 令和4年度 第2回 秋葉区自治協議会

日時：令和4年5月30日（月）午後1時30分

会場：秋葉区役所6階 601・602会議室

1 開会

（金子会長）

皆様こんにちは。令和4年度2回目の秋葉区自治協議会、本会議でございます。

本日の開会のごあいさつをいただくのは、第3部会田中委員。よろしくお願いします。

（田中委員）

第3部会の田中です。よろしくお願いします。今月の15日に懇談会、市長とすまいるトークin秋葉区に出席をいたしました。感染予防対策、また経済、社会活動の再興、選ばれる都市新潟市というお話がありまして、認識をまた深めたところでございます。

また、意見交換会では金子会長をはじめ、多くの団体の方から、秋葉区の課題と問題点ということで提言がされておりました。

また、意見交換会が終わった中で、残念なことに、一部の人が懇談会のテーマから少しずれてきたというようなことがありまして、しかも大声で叫ぶようやっているとすることに雰囲気として違和感を持ったというところが私の感想ではありました。

私の選出母体は満日コミュニティ協議会ですけれども、少し紹介をさせていただきたいと思います。コミュニティ協議会の11団体の中で一番小さいコミュニティ協議会ではないかと思います。スローガンは、「こどもからお年寄りまで笑顔が絶えない住みよい満日づくり」ということで、活動をしております。

やはり老人の人口が高くて、さらに子どもの数が減少しております。当然、核家族、一人暮らし、こういう世帯が増えております。そのような状況のもとで、一つとして、明るく元気な地域づくり、二つ目として、安全で安心な地域づくり、三つ目として、健康で豊かな地域づくり、4つ目として、相談しやすい体制づくりということを念頭において取り組んでおります。

やはり、隣同士の関係が大変希薄化しておりまして、交流の機会が減っています。少しそういうところが気になってはいますが、新型コロナの感染対策ということで、自粛ムード。これが活動の範囲を制限しまして、地域の活動も停滞気味というところで、やはりどこのコミュニティ協議会もおそらく同じではないかと想像いたします。そうした中で、継続できるところから今年も高齢者世帯の声がけ訪問とか、地域の茶の間、こ

の辺のところの活性化を何とかして図っていきたいと思いながら、そしてアウトドアでは塞の神、秋の収穫祭、芋掘りということで、ふるさと満日を自慢できる子どもたちの成長を願って取り組んでいるというところでは。

そして、大人同士もコロナで懇親会ができないのですけれども、いずれできるだろうと大人の集まりの宝物として、大いにこれからも期待しているところでございます。こんなコロナの中で地域の活動、この灯を消すことなく地域の魅力づくりにつなげていきたいと考えております。

今日の議題の中でも、区政の運営にかかる議題があります。地域として、大変関心が高いところでもありますので、これからの議題をひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

(金子会長)

田中委員、ありがとうございます。懇親会は宝という力強いお言葉をいただきまして、私もそこはそのとおりで思ひますので、何かのタイミングでやり方を模索したいと思ひます。

議事に入る前に、今日の取材ですけれども、新潟日報とFM新津から協力の依頼をいただいております。写真撮影、録画録音などを許可してよろしいかお諮りしたいと思ひますが、いかがでしょうか。ありがとうございます。異義ないようですので、許可することにいたします。

2 議事

(1) 秋葉区自治協議会推薦会議について(報告)

(金子会長)

では、次第に基づき進めさせていただきます。最初に、次第(1)秋葉区自治協議会委員推薦会議の開催についてということで、座長の田中委員から報告をお願いいたします。

(田中委員)

秋葉区の自治協議会委員推薦会議の座長、田中です。この度、小須戸コミュニティ協議会選出の委員の交代がありました。ご報告をいたします。佐藤委員の後任といたしまして、小須戸コミュニティ協議会から木村宗文さんが推薦されました。木村さんは、市の附属機関委員等の兼務がなく、18歳以上という年齢制限も満たしております。委員候補として決定しまして、推薦会議運営要綱第8条第1項に基づきまして、推薦会議決議をもって市長に推薦いたしました。任期は前任委員の在任期間となっておりますので、

令和4年5月7日から令和5年3月31日まで、部会は第2部会、ひな・お宝巡り部会に所属していただきます。

(金子会長)

ありがとうございます。ただいまの件につきまして、ご意見やご質問等がございましたら挙手でお願いいたします。いかがでしょうか。特によろしいでしょうか。

今、田中座長からもお話がありましたけれども、所属の部会については第2部会ということで、前任の方を引き継いでいただく。あとは、ひな・お宝巡り部会にも入っていただき、ご尽力をお願いするということでよろしくをお願いいたします。よろしいですか。

これで、次第(1)秋葉区自治協議会委員推薦会議の開催について、終わらせていただきます。

これは推薦のため、一応皆さんの決を採らないといけないのですが、ただいまの件につきまして、皆さんよろしいでしょうか。ありがとうございます。

木村委員、さっそくいきなりで申し訳ございませんが、一言ごあいさつをいただけましたら幸いです。

(木村委員)

特段申し上げることもありませんが、どうぞよろしくをお願いいたします。

(金子会長)

お世話になります。よろしくをお願いいたします。

部会のほかに、秋葉区自治協議会推薦会議委員にも所属していただきお願いしたいということで、皆様それでよろしいでしょうか。ありがとうございます。改めまして、よろしくをお願いいたします。

(2) 区政運営にかかる評価について(参考意見聴取)

(金子会長)

次に、次第(2)区政運営にかかる評価について(参考意見聴取)ということで、令和3年度の評価です。あとは、令和4年度の組織目標について、一括して、古俣副区長からご説明をお願いいたします。

(副区長)

お世話になっております。副区長の古俣です。今日は、区長が議会に出席しておりますので、代わりに私から説明をさせていただきます。よろしくお願ひします。

皆様のお手元の資料2をお開きください。本市では、年度の当初に区長が区の組織目標を策定し、1年間事業に取り組んだあと、年度末に自己評価を行いまして、次年度の

組織目標に反映させるよう努めているところでございます。この度は、今後の事業実施などの参考といたしたく、区長が行った自己評価に対するご意見を皆様に向うものです。その資料として、資料2の下記に資料が掲げられておりますけれども、そうした資料が2点と、一番下の参考資料を皆様に配布いたしました。

次に、お手元に資料2-1をご用意ください。標題は、令和3年度秋葉区組織目標です。資料の下には、ページ番号を入れております。最初に1ページです。下の大きな枠囲みが昨年度の秋葉区組織目標となっており、4つの重点目標を据えておりました。

1ページのちょうど真ん中辺をご覧ください。重点目標1として、産学官や地域が連携したまちなか活性化などのほか、アキハスンプロジェクトの理念に基づいた地域アイデンティティの醸成、地域主体の移住・定住促進の支援あるいは人材育成などにより、地域と住民主体による魅力あるまちづくりを目指したところです。また、2点目としては、コミュニティ協議会と協働で地域課題の解決や地域づくりを推進していくものです。区民と協働した防犯対策も掲げました。3点目は、地域住民や関係機関と連携、協力して、健康づくりの推進や地域包括ケアシステムの仕組みづくりと支援に取り組むことを掲げております。4点目としましては、里山、鉄道、花など秋葉区の特徴を活かした活性化や交流人口の拡大に取り組むことを掲げておりました。

2ページをお開きください。今ほどの4つの重点目標に対する取組み結果をここに記しております。なお、A3の資料でこれらについて見てまいりたいと思います。重点目標1の取組み結果については、A3版資料の4ページ、A3の資料は右下にページ番号を記載しております。

4ページの資料です。表が大きく載っておりますけれども、その見出しをご覧くださいと、左からナンバー、部区組織目標、組織目標、その主な取組み、指標の項目（単位）あるいは各年度の実績と目標、それから右手には補足・参考指標がございまして、目標の達成状況という欄がございます。この表の左から2列目、部区組織目標の欄の1が、先ほどのA4資料に出てきた重点目標の1に該当いたします。そこで、このA3の資料の一番左のNo.1ですけれども、主な取組みはまちなか活性化実行委員会の開催や、産学官連携による人材育成となります。

この項目の表の右手、目標達成状況の欄をご覧ください。まちなか活性化実行委員会は、新津商工会議所、薬科大学、秋葉区役所で構成され、部会としましては健康部会、まちなか部会、里山部会の三つの部会がございます。そのうち、健康部会が実施してきました健康フォーラムの開催について、他の部会も連携して企画開催したものです。また、学生の地域づくり体験では、学生によるコミュニティフィールドワークを実施いた

しました。

次に、表の No. 2、その下の段になりますけれども、No. 2 が同じく部区組織目標の 1 に該当する取組みとなっています。左から 4 列目の主な取組み欄、ブランドや魅力の発信、移住体験ツアー、モデル地区への支援については右から 2 列目にありますように、コロナ禍の影響を受けまして、WEB によるオンライン移住相談会を初めて実施しましたが、市の支援制度を利用した県外からの移住者は、結果としてはゼロでございました。また同様に、2 月に予定していた教育懇談会もコロナ禍により中止としましたが、秋葉区の助成からなる A k i h a きらめきプロジェクトのチームでは、WEB を活用してミーティングを重ねまして、動画の制作による地域の魅力発信に努めることができました。以上の結果から、評価につきましては一部未達成となりました。

次に、区の組織目標の重点目標 2、住民主体の地域活動の深化と区民と協働した防犯対策についてです。こちらは、同じく A 3 版の 4 ページの No. 3 と No. 4 が該当いたします。まず、No. 3 ですが、昨年度、各コミュニティ協議会に伺って開催している地区懇談会を、昨年度は 11 コミュニティ協議会のすべてにお邪魔して、ご意見、ご要望を伺いました。そのうち課題につきましては、できることから徐々に解決に向けて取り組んでいるところでございます。

その下、青パトによる防犯パトロールの実施と実施団体の募集についてですが、年間で 65 回実施するとともに、実施団体の募集を 2 回実施したところです。重点目標 2 につきましては、達成と評価しています。

次に、重点目標 No. 3 です。こちらは、A 3 資料の 6 ページをお開きください。6 ページの資料の No. 1 と No. 2 になります。まず、No. 1 の地域包括ケアシステムについてです。主な取組みとして、認知症高齢者等に優しい地域づくりの推進と認知症に関する知識の普及啓発となりますが、表の右側の目標達成状況にありますように、区だより、FM 新津、ポスターによる啓発のほか、ネットを用いた認知症講演会を開催して、普及に努めました。

また、その下段の No. 2 です。主な取組みとして、障がい者を多方面から支えられるよう、つながる支援ファイルの普及や子育てサロンをはじめとした子育て講座の開催、フレイル予防教室の開催などに取り組んできて、いずれも自己評価につきましては達成とさせていただいたところです。

次に、重点目標の No. 4 になりますけれども、こちらは A 3 の資料の 7 ページをお開きください。No. 1 でございます。主な取組みとしては、里山未来創造事業として、A k i h a マウンテンパークの実施、花の湯館、石油の世界館、里山ボランティアセンタ

一を使ったスタンプラリーなどの連携事業あるいは阿賀野川ライン協会による動画作成、それから花のPRなどとして新津駅を花で装飾したり、あるいは新日本海フェリーでアザレアを展示するなどPRに努めました。これらの重点目標 No. 4につきましても、評価としては達成とさせていただいたところです。以上が、令和3年度の秋葉区組織目標の取組みと自己評価となります。今回、委員の皆様からは、これらについてご意見を願います。

なお、参考資料として、令和4年度の秋葉区組織目標をご用意させていただいております。重点目標につきましても、令和3年度に引き続き取り組む内容がほとんどではありませんけれども、一つだけ大きな変更をあげるとしますと重点目標 No. 2になります。参考資料、ページ番号でいうと10ページになりますけれども、重点目標 No. 2、安心安全なまちづくりとして、令和3年度では防犯パトロールをあげておりましたが、今回は土砂災害への対応力強化に取り組むことを掲げております。防犯パトロールにつきましては継続して取り組む一方で、昨今の災害の激甚化に備える必要や、あるいは避難指示の体制は昨年の5月でしたか。避難勧告がなくなって、高齢者と避難とか、その上が避難指示といったような形に変わったり、あるいは今年度はたしか、気象庁、国土交通省が大雨、豪雨に関する情報の発信の強化などを開始しておりますので、こうしたことなどを踏まえまして、豪雨と土砂災害を想定した区役所の災害対策本部の図上訓練を実施しまして、手順の確認や即応力を磨いていきたいと考えております。

なお、A3版の資料につきましては、恐れ入りますが、時間の都合上説明を省略させていただきたいと思っております。ご意見をよろしく願います。

(金子会長)

古俣副区長、ありがとうございます。それでは、皆様からただいまの説明に対してご意見を頂戴したいと思います。令和3年度の事業に関する評価を今、ご説明いただいたわけですが、評価に対して皆様がどう評価するかということです。意見聴取で、自治協議会としての意見を、また私が取りまとめて区に出したいと思っておりますので、ぜひ、どんな角度からでもけっこうです。気になったところ、ここは特に素晴らしかったとか、どのような角度、どのような内容の評価でもかまいませんので、ぜひお声を聞かせたいと思います。思いついた方からどうぞ。挙手で発言をなさってください。

(伊藤(治)委員)

スポーツ協会の伊藤です。いくつか言いたいのですが、まずこの前の市長との懇談会で、質問は1人1個とおっしゃっていただきましたので、そこで後ろで大きい声を出し

て、ではまたということで発言を許したりしていることは少しいかなものかと。やはり1人1個の質問ですといたら、ぶれないでそのとおりにやっていただきたかったと私は思いました。

それから、今、金子会長から令和3年度だけと言ったのですけれども、実際、ここに令和4年度も出ていましたので、私は両方見比べまして、まじめに全部読み込みました。そうすると、評価だけでなく令和4年度も全部関係してくるのではないかと考えていますので、質問させていただきます。

まず、今日は欠席になっていますけれども、夏目区長より長崎区長に変わって、秋葉区がどんなふうに変更になるのかということ、まず私は区長に直接お聞きしたかったということが一つです。

細かく見ていきますと、地域総務課の重点目標2の中で、私はチェックしていたのですけれども、青パトが消えていると思ったのですけれども、先ほどのお話でやっていくということですので、これはオッケーだと思います。それから、令和4年、5、再生可能エネルギー利用と自家発電、蓄電システムも出ていたのですけれども、実際の話、私の家はソーラーパネルを8年前に載せて、2年前に息子がまた家を建てるときにそちらにまたソーラーパネルを載せて、ついでに蓄電池も変えました。ですので、我が家は今、合計すると10キロくらいの発電能力を持っています。

家内に一体どのくらい電気料が安くなっているのか見せてくれということで、調べてもらったのですけれども、やはり雪が降っているときの2月や3月というのは、東北電力にお支払いする金額が約2月、3月は3万4,000円、売電のほうは4,000円しかなかったです。4月になると、電気料が2万3,000円で、雪の関係で2,000円くらいしか入ってこなかったです。ところが5月になりますと1万1,000円、東北電力に対して1万1,000円、いただいたほうが2万円と黒字になりました。6月になりますと、まだ東北電力から電気料の請求がきていないのですけれども、売電したのが3万円と完全に黒字です。だから、再生可能エネルギーと蓄電池、5キロしかなかったのですけれどもなかなか金額が張りますので、その辺を進めていくには市としてはどのようなバックアップでこれを普及させていくのかを聞きたいと思っています。参考として、我が家の状態をお話ししました。

区民生活課と健康福祉課は、令和3年、令和4年は大体同じ目標になっているので特にないのですが、産業振興課では令和3年の2のプログラミングが令和4年のほうでは消えていました。これはもうやらないのかと。子どもたちに対するプログラミングをやるうとしたけれどもなくなっている。令和4年の4の新規で出ている、わくわく石油楽

習。先ほど聞いたのですけれども、これ楽習は誤字ではないのですかと言ったら、わざとこういう字にしたという話を聞きましたので、これについてもいいことかと思っています。説明していただければありがたいと思います。

建設課、自治会会長の経由でなくても、市民個人からもいろいろ要望を受け付けてくれるのでしょうか。私自身、もう 10 年以上前ですけれども、自治会長をやったことがあるのですけれども、何かあると直接区に言わないで自治会長を経由して言ってくださいという意見を聞いていました。そうすると、自治会長の中でも足腰の軽い自治会長と、これはこうしたほうがいいのにと言ってもなかなか動かない自治会長もいますので、市民個人からの要望も例えば、生活環境、アスファルトなどの話だと思うのですけれども、個人の要望を受け付けるのかどうかを、もう一回建設課からはっきり返答をいただきたいと思います。

いくつか言いましたけれども、まとめて質問をさせていただきました。よろしく願います。

(金子会長)

ありがとうございます。意見というより、まず質問をいただいたという形ですか。

区長の交代によって、何か施策とか目標に変化はあるのかということは、今日はご本人がいらしていないので、これはどうしたらよろしいでしょうか、古俣副区長。

(副区長)

私のお答えできる範囲内でお願いしたいと思います。私の印象ですので、少しだけお話を割り引いて聞いていただければと思います。まだ 2 か月なものですから、まだ区長が自分の考えを外に、あるいは我々トップに対して伝える場面というのはそう多くはないのですけれども、私が感じているのはまず、まちなかの活性化あるいは子育てに関する思いが夏目区長よりも強い気持ちをお持ちかという印象を持っています。

それから、伊藤委員から再生可能エネルギーの関係ですよね。売電で、そんなに天候、季節によって金額はそんなに大きな差があるのかと私も聞いて半分びっくりしたのですけれども、市で促進策は考えていないのかということだと思うのですが、現在のところ、再生可能エネルギー、例えば太陽光発電の設備の導入を支援する市の助成事業は、私の知る範囲では見あたらないのですけれども、今現在一つの例として、秋葉区で実際に導入しているのは越後天然ガスのほうで、国内の天然ガス。実際に私が聞いたのは、小千谷でとれる天然ガスを引っ張ってきて発電をして、そこに太陽光パネル、こちらの区役所にも太陽光パネルを設置していますけれども、そういったものとミックスさせて公共施設に対して電力を供給しております。少しでも、太陽光を取り入れることによって、

炭素をなるべく、脱炭素まではいきませんが、低炭素なエネルギーを導入できるような取組みを現在行っているところです。

それから、産業振興課の小学生向けのプログラミングについてですが、おそらく今年度はやらない方向で考えていると聞いております。

建設課の市民からの要望についての対応もお尋ねがございましたが、こちらは増田課長補佐がおりますので、回答いたします。

(建設課課長補佐)

建設課課長補佐の増田と申します。よろしく申し上げます。

工事要望ですが、例えば、砂利道を舗装してもらいたいとか、ある一定区間、側溝が入っていないので側溝を入れてもらいたいといったものについては、やはり沿線の皆さん方の同意も必要ですし、町内で似たようなものがないのかどうかといった観点から、自治会で一旦その話を聞いていただいて、自治会としてここをお願いしたいという形で、町内会から要望を出してもらうようにしています。ですので、個人の方から言われた場合は、地元の調整等もあるので、少し手間ですが自治会にお願いしてくださいという形でお答えしています。

あとは、側溝の蓋が割れているとか、舗装に穴が開いているといったものについては個人から要望をいただいて、すぐ直すように対応をしております。

(金子会長)

少しお答えが代替エネルギーのところは噛み合っていなかったような気がするのですが、伊藤委員がおっしゃられたことは個人宅、各世帯で取り組んでいる代替エネルギーへの転換に関するバックアップはどういうふうにお考えなのかという質問でしたよね。その辺はいかがでしょうか。

(副区長)

今、詳しい資料がないのですが、その辺はいかがでしょうか。私の知る範囲内では、市民への助成制度はないのではないかと思います。

(金子会長)

伊藤委員、そういう回答をいただきましたけれども、それを受けてご意見はございますか。意見聴取ですので。質問の回答を聞いて、それでオッケーということでしょうか。

(伊藤(治)委員)

ここにしっかりあげているわけですから、5、地域総務課のNo. 5。

(金子会長)

令和4年度ですか。

(伊藤(治)委員)

令和4年度です。

(金子会長)

何ページになりますでしょうか。

(伊藤(治)委員)

12 ページ、No. 5 です。そこにしっかり書いてあるものだから、区役所として何か考えているのかと。

(金子会長)

今のご回答では、具体的には何か考えておられるようですね。

(伊藤(治)委員)

一応書いてあるだけ書いて、何もしないということでしょうか。

(金子会長)

考えてくれという意見を出すこともできるので、どうしますか。改めて確認です。

(伊藤(治)委員)

せっかくここに書いてあるのに、何もしないということでしょうか。

(副区長)

一応 No. 5 で書いている取組みですが、再生可能エネルギーの利用促進という大目標は一応掲げているのですが、最適化を図るシステムの構築について、まず秋葉区みらい会議などの場で議論を重ねて、産学官とこのみらい会議には、実は経済産業省の方とか、あるいは東京工業大学の先生とかも参加しながら、今後の低炭素、脱炭素に向けた地域づくりについて考えていこうということで、協議を今、重ねているところです。それらをまだ、皆様に形としてお見せできないことが大変残念ではあるのです。ただ、目標としては掲げて、何か取組みを秋葉区の中で展開できるような方向を考えております。

あとは、国で脱炭素先進地域ということで、環境省が 100 の都市を今、募集して、第2次募集が間もなくあると思うのですが、そちらへ手を挙げることも新潟市で今、検討されているところです。その中で、また具体的な何か材料が示されてくると思いますので、まだこの段階では伊藤委員をはじめ、委員の皆さんにはお示しできないものがないのですが、一言で言うと気持ちだけは持っていますので、長い目でご覧いただければありがたいと思います。

(伊藤(治)委員)

参考ですけれども、蓄電池。前は液体のリチウム電池だったのですけれども、現在、固体リチウム電池が開発されて容量は3倍になって、体積が非常に小さくなっています。前は、外にどんと置いたのですけれども、今は家の中に入れられるので、皆さんもこういうものを利用していけば、相当エネルギーのロスをなくすることができるのではないかと考えております。参考意見でございます。

(金子会長)

ありがとうございました。あとはよろしいですか。なくなったということで分かりました。

では、ほかの方いかがでしょうか。

(青木委員)

今日のご苦労さまでございます。金津コミ協の青木と申します。昨年1か年を振り返りまして、よかったというものを二つご紹介なり、お礼を申し上げたいと思います。

まず、1点目でございます。区民生活課からやっていただきました No. 3 です。日常業務の改善というところです。実は、昨年に金津地内にイノシシが9頭出て、大変四苦八苦して困ったのです。最初に相談に行きましたら、前はこうだということで前例踏襲的なことを考えて述べられていたのです。けれども、その後、本当に真剣になって取り組んでいただきまして、今はまだイノシシがいるのですけれども、本当に安心して区にお願いできる、任せられるという状態になってきておりまして、地域の人も喜んでおります。そんな関係で、素早い対応といえましょうか。そのようにしていただいて、喜んでおります。ありがとうございました。

(金子会長)

青木さん、何ページのどこかということをお教えいただいでよろしいですか。

(青木委員)

5ページになります。区民生活課の No. 3 になります。分かりますか。No. 3 の右側、日常業務の改善を進めるとともにという、そこの中にあるのです。

(金子会長)

そこに何が。イノシシがどうってどこに書いてあるのですか。その部分の具体的にどういったところを評価いただいたということですか。

(青木委員)

そこで、金津に昨年、イノシシが9頭出て困っていたのです。そんな関係で主管する区民生活課に相談に行きました。そうしましたら、今までの対応はこうですということ

でいろいろ言っていたのですけれども、当初は期待する回答はなかったのです。その後は、いろいろ改善していただきまして、1頭捕獲していただきました。その後、カメラを設置するとか、いろいろな施策を講じていただいて非常に喜んでおります。

(金子会長)

分かりました。これまでになく丁寧な対応を窓口からしていただいたという経験をもとに、ここの部分を評価するということですね。

(青木委員)

そういうことです。素晴らしい対応でありがたかったということが1点です。

続きまして、8ページになります。建設課です。No. 1になります。ここに、市民からの苦情、要望に対してということで、24時間以内の対応。実は、ここにつきましては、私はこの前困ったことがありまして、建設課に相談に行きました。そうしましたら、24時間どころか、本当に素早い対応をしていただきまして、地域の方も驚いていました。こんなに早くやってくれるのであれば、もっと早く言えばよかったということで、非常に喜んでおりました。ありがとうございます。会長、これでいいですか。

(金子会長)

分かりました。

(青木委員)

分かりましたか。いいですか。

(長谷川(啓)委員)

具体的にどんな対応をしてもらったのか聞きたいと思います。

それから、会場のマイクが一番小さく、音量のバランス悪いのでマイクを変えますか。

(金子会長)

最初のイノシシのほうは分かったのですけれども、2つ目の苦情に対する対応ということは、ちなみにどんなことだったのでしょうか。

(青木委員)

建設課にお願いしたことは、横断歩道のところに、道路の縁石があったのです。今までは、少し取れる程度でかなりじゃましていたのです。ところが、こんなものかということで、地元の方もそんな考えでいたのですけれども、交通が危ないということで、建設課に相談してみたのです。これは危ないですね。では、ということで、本当に3日以内に素晴らしくやっていただいた。そういうことです。分かりましたか。

(会長)

分かりました。

(金子会長)

先ほど、伊藤委員のことにも少し関連するかと思うのですけれども、そういうふうにしちんと丁寧に対応してくださる場合もあるということですね。個人からのお願いですね。ケースバイケースということでしょうか。

(田中委員)

満日コミュニティ協議会の田中です。ページ4の3に関係しますが、コミュニティ協議会と協働で地域の課題の解決ということで、推進しているということで実際に11のコミュニティ協議会を回ったということで、その中で私も出席はしていますが、大変いいコミュニケーションが図られていると感じております。

また、言える雰囲気づくり。これはありまして、本当にやはり助かっています。これを併せて、8ページでしたか。建設課でしょうか。これも併せて、コミュニティ協議会の懇談会と一緒に出席されておりまして、地域ではあの道路はどうなっているのだ。あの側溝はどうなっているのだと。いつになったらやってくれるのだと、いつもいつも思っている方もたくさんいるのです。でも、できることとできないことをはっきりと、そこでまた意見交換をしたり、またさらに要望したり、そんな話もできました。これは、これからも進めていってほしいと思っております。本当に、これが地域の活性化につながりますし、また行政との、それこそ協働というものにつながってくるかと。お互いの信頼感というものがつながってくるのかと私は個人的に思っております。

先ほど伊藤委員からもありましたけれども、全体的な組織の目標というところで、地域総務課の4ページの5に再生可能エネルギーの件、これはやはり目標に掲げていないのは少しおかしいのではないかと思います。市長との懇談会の中にも、市長からの説明がありました。これから、そういう脱炭素ということに向けていくという姿勢もありましたし、秋葉区も、ほかの区はどうか分かりませんが、いち早くこれを目標にあげて、今実際にまだ検討段階でしょうけれども、進んでいるわけです。ですので、ほかはどうか分かりませんが、進んでいるという姿を見せるべきです。

(佐々木委員)

6ページの組織目標3のところの上から2番目のところですが、つながる支援ファイル利用者数というところですが、本当に今、障がいを持つお子さんの人数が非常に増えておりまして、小学校のクラスの約1割くらいが、この障がい児と呼ばれるお子さんになってきているという現実があります。この、つながる支援ファイルにつながっている保護者の皆さんは非常に喜んでおりまして、本当に1人で抱えていた悩みをいろいろな機関に相談できる機会をもらったということで本当に、まず保護者の方が安定し

たということが、つながる支援ファイルの実績なのではないかと思います。

そして、ここまで、令和元年に比べて延びてきたということも大きく評価されることだと思うのですが、意見としてはつながる支援ファイルにつながる方もいるのですが、保護者が希望しないとつながれないということも現実でありまして、学校とか保育園とか児童クラブというものは管轄が違ったりしていて、横に連携できない仕組みもあるのです。けれども、このつながる支援ファイルでつなげていただけたということが、非常に私たちとしては心強いのです。できましたら、保育園などの段階でつながる支援ファイルにつなげていただけますと、さらに支援ファイルを利用する方が増えて、そして支援もずっと続いていくというような形になるのではないかと思います。よろしく願いいたします。

(金子会長)

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。佐々木さんの今のこの議題に関係あることでしたら。

(伊藤(治)委員)

佐々木さんに聞きたいのですが、障がい児がたしかに増えているのですが、どうしてこんなに障がい児が増えたのでしょうか。

(金子会長)

それは、あとでやっていただいたほうがよろしいと思います。二、三分で答えられるわけではありませんので。伊藤さん、あとでお願いします。

ほかにいかがでしょうか。

(長谷川(隆)委員)

資料2-1の4ですが、恵まれた地域環境を活かし、秋葉区の交流人口の拡大を図ります、と非常にいいテーマだと思うのです。高齢化が進んでくると、なかなか出歩く人も少なくなってくる。どんどんまちは疲弊してくるということの対応だと思うのですが、A3の7ページを見ますと、ほとんどが花木に関連した事業が多いようなのです。花木も悪くはないのですが、これをやってどれくらいの交流人口があったのか。例えば、土日には2,000人ずつ入ったとか、そういう結果はどうだったのかということをお伺いしたいです。

もう一つは、秋葉丘陵が目の前にありますが、秋葉丘陵をもう少し整備して、秋葉区内だけではなくて、新潟市周辺の皆さんからお出でいただけるような、極端な話が小さい子どもたちのために遊園地を整備するとか、遊歩道それから衛生面からはトイレだと食事も関連してきますでしょうし、そういう整備を全体的な公園的な整備をもう少しや

っていただければ、周辺の方たちが相当数、秋葉丘陵に应じていただくという機会が増えてくるのではないかと思います。人が来れば当然、経済的にもお金が落ちますから、活性化してくるということで、もう少し。積極的な秋葉丘陵ですし、新潟中心部からも非常に近いわけですし、交通の便もいいということを考えたら秋葉丘陵に手を加えるべきではないかと思います。

今日は小山さんもいらっしゃいますけれども、第1部会でも案内の看板を作ったり、何かしていますけれども、如何せん限られた予算の中でやっているものですから、あまりぱっとしたものはできない。これは市としてというか、区として対応していったほうが新潟市全体的な活性化という面から見たらいいのかと思いますが、その辺はいかがでしょうか。

(金子会長)

質問を頂戴しましたので、お答えをいただけるとありがたいです。まず、交流人口については具体的な成果、数字はどこかに確認することができますでしょうか。

(副区長)

交流人口がどれくらい増えているかという数字のほうは今、申し訳ございませんが、こちら資料がないので、秋葉丘陵の整備に関しては増田補佐、答えられますか。

では、秋葉丘陵の整備。多くの方から、間伐などご協力をいただいたりとか、また第1部会から看板ありがとうございます。また、秋葉公園にたどり着くための看板も、商工会議所から新津駅前に立てていただいたりとか、多くの方からご協力をいただいて、環境整備を進めているところです。

秋葉丘陵の整備については、市民団体の方々からもご意見をいただいております、その辺の事業の推進については、増田補佐からいいですか。

(建設課課長補佐)

整備だけでなく維持管理も含めてですが、遊歩道が数多く張り巡らせております。そこについては定期的に地域の団体、例えば森友の会だったり、そういった団体から点検などをしてもらいながら、特に悪いところは建設課で直していると。

あと、さらなる整備といいますか。例えば、秋葉公園の再整備ですが、以前地域の方々ワークショップを開いて、どういった整備、方向性が望ましいかということを検討いたしました。今は予算取りのための建設課、本庁とそういったところでいろいろと協議を進めているところではあるのですが、正直なかなか簡単に再整備の何億という予算がつかみませんので、身近なところの修繕を中心に、多くの方が利用していただけるように対応しているところです。

(金子会長)

ありがとうございます。では、改めてそれを踏まえてご意見は何かございますか。

(長谷川(隆)委員)

ありがとうございました。整備することたしかですが、それをやはり秋葉区内だけではなくて、新潟市全体の方々からお出でいただけるような、整備ではなくてPR活動をやっているのかどうか。それがないと、周辺の人たちが秋葉丘陵というのはどんなところなのだということが全く分からないわけです。宣伝をするような形で、新潟市内全体にそういうことがやはり取組みの中では必要なかと思います。おそらく、秋葉区以外の人たちは全くどんな設備があるのか、何があるのか知らないと思うのです。子連れで1日遊べるような秋葉丘陵というところをPRしていただければ、相当の方々が、ここは交通の便が非常にいいですからお出でいただけるのではないかと考えています。

(金子会長)

その辺は秋葉丘陵をはじめ、地域資源の活用に関するもう少し戦略的PRを含めた戦略的な展開をとというような意見で取り込んでいきたいと思っています。

(坂口委員)

阿賀浦コミュニティ協議会の坂口です。今のことと関係しまして、お願いを。私はこの前の連休のときに里山で八幡遺跡とか行ってきたのです。行ってみたら天気もとてもよく、大変整備をされていまして、縄文時代の人こんなきれいなところにいたのかというくらいびっくりしたところがあります。

それで、地元に住んでいてもそういう人たちも大勢いるのではないかと考えるのです。こんなに立派な施設が周りがあることに気づかない人たち、秋葉区の人たちだけではなくて、先ほどおっしゃいました新潟市内の人たち。そういう人たちにもPRするには何がいいのか、ということで検討をいただければと思うのです。例えば、秋葉区の日を設けて、その日に各関連施設関係を全館無料にするといった、人を呼び込むような施策をぜひ作っていただければありがたいと思うので、ぜひ検討していただければと思います。

(金子会長)

ありがとうございます。大変前向きなご意見ですけれども、どちらかという令和3年度の事業評価に対する意見を頂戴できると一番ありがたくて、ここの施策提言の場ではないので、そういう意味ではどういうふうに今なったらいいかということ、秋葉丘陵とも同じかと思うのですけれども、もう少しきちんと作戦立ててPRやキャンペーンとか

そういうことを効果的に行って行って、それに対する評価というものも盛り込んでいただきたいというような提案になるのかと思いますけれども、そんな趣旨でよろしかったでしょうか。

(坂口委員)

前に、コミュニティ協議会の地域解決の問題ということで、コミュニティ協議会との会合を取っていただき、私もその席に出たのです。その課題の対応として、区の対応は非常に早く、できないけれども一応現場を見に来ていただきました。難易度があるのですぐにはできないけれども、できるところは区の職員がやりますということで、そのときは雑草を刈っていただいただきました。もっと大きなテーマで、堀を埋めていただきたいというテーマがあったのですが、現場を実際にすぐ見に来てくれたところは非常にありがたかったと思っています。

それから、秋葉区の福祉施設計画、地域福祉活動計画のところ、各コミュニティ協議会でもそういうところと一緒に検討していたのですが、実際に我々が行ったときに、やはりピンとこないのです。住民のコミュニティ協議会の役員の人たちもどんどん変わりますので、以前作った目標値についてのご意見、評価は何ですかと言われたときにほとんど理解されていなかったということがありましたので、そのところは会を重ねるとかそういうことで対応できればありがたいと思いました。

(金子会長)

ありがとうございます。今の地域福祉活動計画の部分のご意見のポイントですけれども、要は地域の側も役員が変わったりするということですよ。そこのところをどうしてほしいということですか。

(坂口委員)

要は、その計画を作ったのだけれども、結局うまくいかないのです。ですので、区と一緒に展開していくときに、一緒の目標となるという会を重ねていかれたほうがいいのではないかと。

(金子会長)

なるほど。その地域の中での目標を行政と丁寧に共有していければありがたいということですね。

(坂口委員)

作るのは、コミュニティ自体が作っているのですけれども。

(金子会長)

そのときの役員たちが作られるので。承知しました。

ほかにいかがでしょうか。

(田中委員)

満日コミュニティ協議会の田中です。7ページの産業振興課のNo.2です。小学生向けのプログラミングによって、将来を担う社会起業家を育てますというところですが、これはなかなかコロナ禍で中止がけっこうあったのですよね。なのに、これは何回くらいやればいいのかも分かりませんが、これで達成ということで捉えた意味は何でしょう。

(金子会長)

それはお答えいただいてもよろしいでしょうか。

(産業振興課)

秋葉区の産業振興課です。令和3年度の目標の参加者数が15名ということで、目標達成状況、右から2番目ですが、8月21日はコロナ禍で中止でしたが、12月19日に15名が参加しました。2月27日はコロナ禍で中止ということで1回しかできなかったのですが、15名参加ということで目標達成という考え方です。

なお、「社会起業家発掘・養成事業」は令和3年度で終了となっております。

(金子会長)

よろしいですか。

(田中委員)

15名という目標自体が低かったというお答えに聞こえます。そういう数ではないかとは思いますが、実際は何を狙ったものなのですかということですが、その辺のところはアンケートか何か取られたのですか。

(金子会長)

数ではなくて質の部分で、本来達成したかったことにどのくらい近づけたのかというあたりですね。

(産業振興課)

今日は、課長も補佐も議会に行っていて、お答えできないので、次回に回答をさせていただきますと思います。

(金子会長)

どんなところからどんな質問がくるか分からないので、完璧に準備することは難しいとは思いますが、今日はお答えいただけないことも多いようですのでもう少しその辺のところの対応をお気をつけいただきたいと私はここで言わざるを得ない感じがします。

田中委員のおっしゃったところは、こんなふうに解することもできるのではないかと
思っていて、要はすべて達成ということは何か数値目標を達成しているというところ
での評価になっているという。そういうことが基本的には多いのかと思うのですけれ
ども、私たちは幸福度調査をやったときに、個別の数値だけの達成では足りないのでは
ないかということと同時に提言させていただいて、それが実績に秋葉のまちをどう
よくしたのかということをもさまざまな角度から分析する必要がある。そのほうが、言っ
てみれば質的な、本来はその事業を通してやりたかったことに対する実績の評価とい
うものが必要なのではないかということは、今回付け加えてもいいのかとは思いました。
田中さん、いかがでしょうか。

(田中委員)

まさにおっしゃるとおりだと思います。

(金子会長)

ありがとうございます。ほかにご意見のある方はいらっしゃいますか。大体よろしい
ですか。

それでは、まず、今日はいくつかご意見を頂戴しましたので、これらを取りまとめて、
また一つの文章に私のほうで編集をさせていただきたいと思います。全体的な私どもの
認識として、一応数値目標をほとんどすべての事業が達成をさせていただいているとい
うことに関する肯定的な評価というものはさせていただいてもいいのかと思いますが、異
義のある方はいらっしゃいますでしょうか。1年間、本当に区役所の職員の皆さんはよ
く頑張ってくださいました。そこを基本スタンスといたしたいと思っております。

それに対するご意見ですか。お願いします。

(坂口委員)

阿賀浦コミュニティ協議会の坂口です。目標値、数値を達成すればいいということで、
数値を上げていただいている、それは目標を達成したので達成ということでしたが、こ
の数値目標というものをどういうふうに決めていらっしゃるのかということが私は分か
らなかったのです。

(金子会長)

ありがとうございます。その辺も、大事なところですね。これは、もう本当にどのよ
うに決まっているのかということは、それぞれ施策によって全然作られている方が違う、
基準が違うと思うのですけれども、その辺の説明も何かのタイミングでしていただける
と。あるいは、事業評価をこういうふうに行いましたということか、どうでしょうか。
事業目標を設定する際に、こういう理由でこういう数値目標ですということをご説明い

ただいたほうがいいのかといったところでしょうか。分かりました。

一応、目標としたものを達成したことに対する肯定的な評価はよろしいですか。ただし、数値目標の決め方に我々は判断する基準がないので、その辺のところも説明をいただきたいという点と、あとは数値的な評価だけでなく、先ほど私をご提案しました、質的な評価のほうもぜひ加えてほしいといったあたりは意見として付したいと思います。

あと、何点か個別の施策、トピックについてご意見を頂戴していただきまして、代替エネルギーに関しては、本当に具体的な進捗を示していただくべき時期ではないだろうかという、具体的な施策目標を設定して示してほしいというところですか。あと、つながる支援ファイルはもう本当に、新しい展開として保育園からの導入をお願いしたいということがありました。

福祉計画は、人が変わっても、区役所も変わりますし、地域も変わりますから、丁寧に共有しながら進めていただきたいという点です。交流人口拡大については、本当に具体的な成果をしっかりと共有していただくことが大事かということと、あとは秋葉丘陵の整備、活用ということが例として出ていましたけれども、さまざまな地域資源、恵まれた秋葉区のこういういいところをもう少し作戦をしっかりと戦略的に練って、外向きのPRであるとか、あとは交流人口の拡大だけで終わっても実はよくないのです。それがもう本当に、交流からもっと、今でいうと関係人口であるとか移住・定住であるとか。それこそ別の目標になるのかもしれませんが、定住の促進であるとかそういったところにもつなげていくという、観光、観光で完結させないという考え方が今、とても大事だと思いますので、その辺は幸福度調査の結果からも提言させていただいているところですか。その辺をもう1回強調したいと思います。

そのほか、窓口の対応がとてもよくてということも肯定的な評価として書きたいと思います。原則、できれば自治会で取りまとめようという建設課からのご回答もあったのですが、その一方できちんと丁寧な対応もいただいているというところを併せて、引き続き丁寧な対応をお願いしたいということで結びたいと思います。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

では、以上をもちまして、次第（2）区政運営にかかる評価についてを終わらせていただきます。

3 その他

ア 部会活動報告

（金子会長）

続きまして、次第（3）、その他ということで、まず各部会の活動報告をいただきたいと思います。本日は広報部会からの報告はないと伺っておりますので、第1部会、第2部会、第3部会の順番でご報告をいただければ幸いです。では、最初に第1部会の横山部会長をお願いします。

（横山委員）

皆さん、お疲れさまです。第1部会の横山です。第1部会は、きらめきサポートプロジェクトをスタートさせていただきまして、今月12日に説明会が行われました。来月、応募が締め切りとなりまして、そこから14日に一次審査、21日に二次審査が行われまして、6月中には採択される案件が決まるということになっています。次回の本会議で、決まった案件がご紹介できるかと思っております。

（金子会長）

ありがとうございました。第2部会の蓮沼部会長からお願いします。

（蓮沼委員）

第2部会の蓮沼です。第2部会は、今日は報告するような事項がないのですが、前回、満日地区の生活交通支援のアンケート結果をもとに、ゴールデンウィーク明けに打ち合わせ開催を行いますという予定でしたけれども、満日地区から6月に入ってから行いたいということで、6月12日に行う予定になっております。その結果は、次の自治協議会で報告したいと思います。

（金子会長）

ありがとうございました。第3部会の花水部会長からお願いします。

（花水委員）

第3部会の花水です。第3部会のおとな大学です。昨年度はコロナ禍で延期となりました3つの項目、秋葉硝子のガラス作り体験、新津工業高校の実習見学、JR新津運輸区の見学の3つをそれぞれの期間にスケジュール調整をしながら、今年度のおとな大学と同時進行をしていこうとおります。今年度のおとな大学は、2つの項目を設けました。一つ目は、里山トレッキング。まだ、具体的にはコース内容が確定していませんが、4つのコース巡りを検討中ということです。

2つ目が、おうちでもち麦クッキング、秋葉区の特産のもち麦を活かして、これをコロナ禍になっても中止をせずに進めようということで、ウェブ配信をしようと考えております。これは具体的に月が決まっています、今年度は3回、計画いたしました。8月、11月、2月に食推のクッキングの模様を前の月に収録しまして、各月にウェブ配信をします。メニューはすべて、食推にお願いしてありますが、作る内容は既に決まって

おります。あとは、食推と打ち合わせをしながら収録日を設けて配信をしていきたいと思っています。せっかくなので、昨年度きらサポでお世話になったタミさんともち麦の歌を作ってもらって、コラボしながら、それをタミさんも自分で配信し、こちらはこちらで同じように配信をしてもらおうということで今、進めている最中でございます。

(金子会長)

ありがとうございます。3つの部会からそれぞれご報告をいただきましたが、ご意見やご質問がございましたらお願いいたします。

(長谷川(啓) 委員)

民児協の長谷川です。第3部会に提案です。というか。せっかく歌ができるのであれば、ダンスもやったらいかがでしょうか。せっかく土田さんがいらっしゃって、もち麦ダンスといったかわいいものを作ってほしいのです。ウェブ配信をするのだったら流行りそうな気がするのですけれども、いかがですか。

(金子会長)

それは、個別に交渉をいただくことで。

(長谷川(隆) 委員)

横山さん、今現在きらめきサポートは何件くらい応募がありましたか。まだきてないですか。

(横山委員)

今はまだきていません。すみません。

(金子会長)

説明会にいらしたのが。

(横山委員)

10組。

(金子会長)

10組。だから、けっこう高倍率できそうですね。ほかにいかがですか。

イ 「坂口安吾と坂口家を学ぶ」講座について

(坂口委員)

阿賀浦コミュニティ協議会の坂口です。先般、坂口安吾と坂口家を学ぶということで、皆さんに、仮にパンフレット、ちらしをお配りしてあったのですが、今回は正式にちらしができました。実際に、応募をすでに受け付けておりますので、皆さん興味がある方はぜひ応募をいただければと思います。予定では、もう少しで人数に達するかと思いま

す。

それと、人数に達してもしばらくプラスアルファ受け入れる予定もございますので、皆さんぜひよろしく願いいたします。

(金子会長)

今のは、部会とは関係ないお話ですか。

(坂口委員)

すみません。部会とは関係ありません。

(金子会長)

一足先にとということで皆様ご協力お願いします。

ほかに、部会の報告に関するご質問やご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、今日また当日配付の資料等も何点かございますので、それについてシェアをしていただければと思います。まず、副市長宛に、「子育てにやさしい街にするには」ということで、これは佐々木委員でしょうか。ご紹介いただいてよろしいでしょうか。

ウ 4月本会議の中での副市長からの質問に対する回答について

(佐々木委員)

皆さん、お時間いただきありがとうございます。先日、朝妻副市長から、なぜ秋葉区は子育て満足度が低いのですかというような質問を受けまして、子育てと言えば佐々木さんといって振っていただいたのに、あまり満足できるようなお答えができなかったということを家に帰ってからもんもんとしまして、うちのスタッフですとか、お迎えに来るお母さん、そして渡邊彩さんにもお聞きしまして、私なりにこのように2枚ほどにまとめさせていただきました。きちんと、お答えを用意しておけばよかったですけれども、こんな形で文書にして、副市長に地域総務課を通じてお渡しいただきまして大変感謝しております。

児童クラブの保護者や子育て中のスタッフ、そして今子育て中の皆さんにきちんと、全部から聞いたわけではないのですけれども、お時間のあるときにご覧いただけましたら幸いです。すぐに何ができるのかと考えましたところ、一番最後の4角の中、現在も進行中ですが、身近なところからこつこつと行っていきたいと思います。

内閣府がホームページで記載しているのですけれども、子育て満足度が高い地域というのは、子どもを中心とした地域の交流が盛んで、悩みや楽しみを分かち合える場が多いところだと書かれていました。その一端を担えるように今後も私も頑張っていきたい

と思いますし、自治協議会としてもまた頑張っていきたいと思いますので、皆さんどうぞよろしく願いいたします。

(金子会長)

ありがとうございました。何かご質問とかございますか。よろしいでしょうか。本当に、丁寧に補足の説明資料を付けていただいて、朝妻副市長にもしっかり届いていると思いますので、また期待をしたいと思います。

(副区長)

今ほど、佐々木委員からもお話がありましたが、私どもで、こちらのコメントといたしますか。説明のペーパーをいただきまして、佐々木委員からたくさん情報を集めていただいて本当にありがとうございます。

また、長崎区長からこちらを朝妻副区長へ渡すとともに、子育てに関しては今、策定中の秋葉区ビジョンまちづくり計画にも基本方針に溶け込ませたりしておりますが、そちらの二役レク、市長説明ですが、そういった場面でも、そのような区自治協議会の委員からこのような話もありましたというようなことも紹介させていただきながら説明をさせていただいたところでございます。

今後も、こちらの子育て、やはり秋葉区の特色として、幸福度調査では意外な状況ではございましたが、住みやすいまちのためには子育て環境の充実ということはやり遂げなければいけない仕事だと思っておりますので、自治協議会の皆さんからもご理解とご協力をいただきながら私どもは進めていきたいと思っておりますので、何卒よろしく願います。ありがとうございました。

エ 秋葉区幸福度調査事業成果の学会発表について

(金子会長)

古俣副区長ありがとうございます。それでは、「その他」ということで戻りたいと思います。私も1枚、今日は資料を配らせていただきました。秋葉区民幸福度調査事業成果の学会発表についてということで、A4の1枚に私の名前を付して、資料をお配りしてあります。内容はそこに記載のとおりですが、今年、6月26日に総合社会科学会という学会に私は所属をしております、その研究大会が日本大学で行われます。その場をお借りして、せっかく皆様と一緒にまとめさせていただいた幸福度調査の成果、そちらを学会に対しても発表する機会としたいと思っております。内容的には、もう報告書の中身であるとか、提言書の中身とか範囲内でと考えておりますので、その辺のところをご承知おきいただければ幸いです。ちなみに発表タイトルは、新潟市秋葉区におけ

る住民幸福度調査のプロセスと結果および活用ということで、プロセス、過程もとても意義のあるものだったかと思っています。調査部会を設けまして、幸せとは何かというところからの議論から住民自らの頭で考え始めて、協働で封筒詰めから何から集計、分析なども一緒に行っていたというところもぜひ、ご紹介していきたいと思います。

何かご質問等ございましたらお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。ちなみに、報告書と提言書は、本当に事務局で早々に対応していただき、4月の頭の段階で自治協議会のホームページにあがっております。ですので、ぜひ皆さんもPRしていただき、いろいろな方の目に留まればよいと思っていますので、ご確認とPRをお願いしたいと思います。

ほかに、この場で何か共有できるトピックをお持ちの方がいらっしゃいましたら、どうぞお願いしたいと思います。よろしいですか。ほかにないようであれば、これにて議事を終了したいと思います。

閉会のごあいさつは第3部会の佐藤委員からお願いします。

(佐藤委員)

第3部会に所属しています佐藤です。このオレンジのユニフォームですけれども、最近、アルビレックス新潟がサッカーで大変よい成績を収めていまして、これを着ると自分もアルビの一員になったように元気が出るわけでございます。

今日は本当に、今日のメインテーマである区政運営にかかる評価について、熱心に協議していただきましてありがとうございます。感染防止対策の1つとして、対面による会議やそういったものがなかなか開きにくい現状でありますけれども、今日のように対面で協議をすると白熱した議論といいますか。そういったものが見られる。これも、本当に大事なことだと思っています。この資料を見まして、評価が29項目あるわけですけれども、そのうち2つが一部未達成、残りの27が達成という状況で、本当に素晴らしい成績です。区役所の職員の皆さんのご尽力に本当に敬服をいたしております。あまり、働き過ぎて健康を害さないようにしていただきたいと思っています。

問題になった評価の妥当性をどのように担保するのか。やはり、先ほども出ましたけれども、量というもの、これは数値化可能なわけですが、量というものと質というもの、そういう両方の観点から評価基準というものを設定するということが非常に難しいのですけれども、評価の妥当性を保証する大事な基本的なものではないかと思っています。

例えば交流人口の拡大、そういったものはどういう場面で、どういう方法で数的に捉えるのかと。当然、捉えていると思います。何々の施設にどういう来館者数が来ている

とか。そういう数値的なものは、そういった場面を設定することによって捉えることができるわけです。そうしたときに、これが先ほどもありました、今度質的な面ですが、これを目標が交流人口の拡大を目指す、広がっていったときに、理想的な姿が広がればいいのかというような点、そういうステップアップした目標設定というものが必要になってくるだろう。そうすると、4年間で達成できるのかとか、何年間でこれを到達させるのかというような長期的な目的といいますか。そういったものも検討する必要があるのではないかと考えております。

また、プログラミング、起業家を目指すとか、そういうものを小学生段階から育てるのでと、これは非常に壮大なねらいがあるわけですね。研修会、プログラム教室を何回やるのか。これも一つの指標になるかと思えますけれども、どういう内容でやっていくのか。そして、それを初期段階で、プログラミングというものはどういうものなのかということを経験したときに、どういうテーマでそういったものを作らせていくのかとか、そういったものと起業をやりたいというふうに育っていったときに、どういうサポートが必要なのかとか、そういったことも本当に難しいのですけれども、視野において、目標設定をしていく必要があるのだろうということを感じました。私も初めて協議会に入れてもらって2年目になるわけですがけれども、本当に皆さんが秋葉区をどういうふうにして魅力あるまちにしていくのかということを真剣に取り組んでおられるということで、大変勉強になりました。今日は、本当にどうもありがとうございました。

(金子会長)

佐藤委員、ありがとうございました。

それでは、進行を事務局にお返ししたいと思います。ありがとうございました。